

ふう けい き こう  
**風景紀行**  
**「寝覚の床風景林」と**  
**木曾八景**  
**85**  
 木曾森林管理署  
 (各署の景勝地等を紹介)

**旅の宿りの寝覚の床**

【木曾署】 木曾郡上松町にある木曾八景の一つ寝覚の床は、木曾川の水流によって花崗岩が浸食されてできた自然地形で、大正十二年に国の史跡名勝天然記念物(名勝)に指定されています。近辺の国有林は、寝覚の床と一体となって特色



国の名勝「寝覚の床」

のある優れた景観を構成していることから、風景林に指定されています。寝覚の床の中央には「浦島堂」があり、周囲は美術公園や歩道が整備されています。また川沿いを走るJR中央西線の特急「しなの」では、列車によって車掌が近くを通過する際にアナウンスすることがあります。

『浦島太郎伝説』

昔、丹後の国浦島というところに太郎という少年がいました。ある日太郎が大きな亀を釣りあげたところ、供の者が亀にいたずらをしようとしたので、太郎はそれを止めて亀を海に返してあげました。太郎が家に帰ろうとすると、一人の美しい少女が近づいてきて「助けていただいてありがとう」と礼をのべ、太郎を竜宮城へ案内しました。たいそうなもてなしを受け、月日の経つのも忘れて遊んでいた太郎はある日故郷を思い出し、竜王にいとまごいを申し出ました。竜王は、弁財天の尊像と、万宝神書を一卷、そして決して開けてはいけないという玉手箱を渡してくれました。太郎が故郷に帰ってみると、見知らぬ人ばかりで、「浦島太郎といえは、三百年ほど昔、沖に出てそれきり帰らぬ人」と近所の人に語られていたのです。淋しさに耐えかねた太郎は諸国に旅にでました。ある日太郎は、竜宮での生活が忘れられず「今一度」と貰ってきた玉手箱を開けてみる

と、立ち上る白煙とともに白髪の翁となりました。「ああ、今までのことは夢だったのか」と目覚めたことから、この地を寝覚といい、床を敷いたような岩を見て、人々は寝覚の床と呼ぶようになりました。

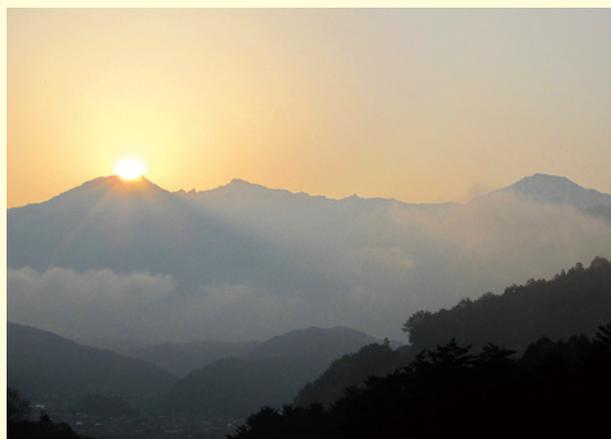
『木曾八景』

- 徳音寺の晩鐘
- 御岳の暮雪
- 駒ヶ岳の夕照
- 棧の朝霧
- 風越の晴嵐
- 寝覚の夜雨
- 小野の瀑布
- 与川の秋月



木曾の棧 (石積が当時を偲ばせる)

寝覚の床は、中山道を訪れた歌人によって「七とせの あとおやおもうたれか又 ねさめの床の 雨のよすがら」



木曾駒ヶ岳からの朝日

と詠まれ、長野県歌「信濃の国」に「旅の宿りの寝覚の床」と歌われています。

◆アクセス

- 【公共交通機関】
- JR中央西線上松駅下車バス五分
- 【家用車】
- 中央自動車道中津川IC(国道十九号線経由約一時間、長野自動車道塩尻IC(国道十九号線経由約一時間)



木曾八景「小野の瀑布」